

第31回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～西アジアと中央アジア～

監修・講師

内藤正典

学習のねらい

私たちの住む日本は東アジアに位置する。中国の西側に広がる地域を中央アジアと呼び、カスピ海の東、トルクメニスタンあたりまでを指す。それより西は西アジアになる。これらの地域の共通性は、イスラームという宗教を信仰する人々が多いこと。自然環境では、乾燥地域が広がっていることである。現在、西アジアの地域では紛争が多く、難民の発生など大きな問題に直面している。今回は、これらの問題の背景となる地域の特性について考える。

今回のポイント

- イスラームを中心とした生活文化
- 石油は何を変えたのか？
- なぜ紛争が多いのか？

■■■ イスラームを中心とした生活文化 ■■■

イスラームは7世紀のアラビア半島に生まれた一神教。先行する一神教のユダヤ教とキリスト教もこの地域で生まれた。神は唯一で、絶対的な存在とされるので、人は神が下した啓示（メッセージ）に従って生きることが求められる。そのため、何が正しいのか、何が間違っているのかについての判断も、イスラームの教えの中にあると考える。ひとつ例をあげれば、弱い立場の人を守ること、彼らを助けることは大切な教えであり、多くのムスリムが実践する。

イスラームは戒律が厳しいと言われることが多いが、それは人間とその社会のルールを示しているためである。逆に言えば、イスラームに示されていることで、これをして良いのか、悪いのかを悩む必要はない。イスラームの中に示されていないことについては、基本的にしてもしなくてもよいが、事柄によっては、関係するルールからイスラーム学の先生たちが議論して結論を出すこともある。

■■■ 石油は何を変えたのか？ ■■■

20世紀に入ると石油がエネルギー資源、化学製品の原料として大変重要になる。石油は資源として採掘できる地域が限られているため、大国による争奪戦が繰り広げられた。西アジアのアラビア半島、ペルシア湾岸の地域に石油が発見されたことは、砂漠の地に莫大な富と大きな変化をもたらした。サウジアラビア、アラブ首長国連邦、クウェート、カタールなどの国々では、石油を利用して海水から真水をつくり、もともと厳しい自然環境にあったこの地域を発

展させることができた。しかしその一方で、石油をめぐる争いも絶えず、また、国のあり方として王族や一部の領主が国を支配する体制が続いてきた。

■ ■ ■ なぜ紛争が多いのか？ ■ ■ ■

西アジアの地域では多くの紛争が続いている。第二次世界大戦後にパレスチナの地域を分割してイスラエルという国が誕生したことにより、もともとパレスチナに暮らしていたアラブ系の人たちとの間には激しい紛争が起きて、今も続いている。

近年ではシリアの内戦、イエメンでの内戦のように、出口がなかなか見えない中で、国連によって最悪の人道危機とされる紛争も起きている。原因は単純ではないが、そのひとつは、この地域の国々の国境線が、およそ 100 年前にイギリスとフランスによって勝手に引かれた線を基にしている点にある。同じ民族や宗教に属する人々を分断してしまったことが争いの原因となったのである。また、石油資源をめぐる争いで、イラクが隣国クウェートを突然占領したことによって起きた湾岸戦争(1991年)のように、資源をめぐる紛争が多いことも特徴となっている。

